

2026 年度 事業計画

はじめに

- (1) 2024 年 1 月の能登半島地震から 2 年以上が経過しました。近年は地震・台風・豪雨などの自然災害が甚大な被害をもたらすケースが増えており、防災・減災への備えは一層重要になっています。同時に、社会福祉活動において私たちが掲げる「寄り添い・支え合う」姿勢の大切さを改めて認識し、共助の輪を広げていく必要があります。
- (2) 一方、経済環境の変化に伴う物価高騰により、子育て世帯や高齢者、生活困窮者など、いわゆる生活弱者とされる方々の負担は増すばかりで、貧困や格差の拡大は深刻さを増しています。生活者に寄り添った支援や社会的養護支援ネットワークの拡充に努めるとともに、労働者福祉事業の精神である「福祉はひとつ」の理念のもと、人と人とのつながりを大切にし、平和で安心して働き暮らせる持続可能な社会の実現に向けて取り組みを進めていきます。
- (3) 2026 年度も、勤労者の福祉サービス向上と地域貢献によるライフサポート活動の継続を基本に、地域勤労者の福祉促進、親子参加型の子育て支援、勤労者の健康増進・生活改善サポートなど、地域の生活者に寄り添い、身近に参加できる活動を展開していきます。また、各事業団体の取り組みの輪を広げる「労働者自主福祉運動」については、改めて労働運動の一環として位置づけ、「みんなで参加する」ことを実感できる関係づくりを進めていきます。
- (4) ボルファートとやまの事業運営（テナント・貸室・駐車場）については、連合富山構成組織・加盟組織、各事業団体のご理解とご協力、そして従業員の営業努力が実を結び、2025 年度も経常黒字を確保し、5 年連続の黒字を達成することができました。会館経営の安定化をめざして策定した「第Ⅱ期・中期経営改善計画」も最終年を迎えます。事業運営と会館維持に向けて計画に沿った取り組みを進めるとともに、今後の会館事業の将来ビジョンを定めるための議論を深め、責任を持って対応していきます。

2026 年度も、富山労福協は「労働者福祉事業」と「会館収益事業」の 2 つの事業を中心に、以下のとおり取り組みを推進していきます。

I. 労働者福祉事業

1. 労働者自主福祉運動の促進と共助の輪の拡大

富山労福協では、「労働と福祉」を運動の軸に据え、連合富山および労働者福祉事業団体との連携・協同をさらに深化させるとともに、労福協運動をより身近に感じられるよう、「ともに運動する」関係づくりの強化に努めます。

【1】労働者福祉事業団体と労働組合との「ともに運動する」関係の強化

◆持続可能な労福協運動の展開を実践するために

北陸・中部・近畿2府10県で構成される中部労福協が開催する集会・学習会への参加を促し、連合構成組織・加盟組織の労福協運動への積極的な関与を図ります。

◆労働者自主福祉運動の促進と共助の輪の拡大をめざして

年間を通じて、構成組織・加盟組織に対し、事業団体によるトップ訪問を実施します。その際、定期大会議案書への運動方針掲載の要請を含め、労働組合に対する各事業団体の利用促進に向けた周知活動を行い、共助の輪を広げていきます。

【2】労働者福祉事業団体としての「講座」の充実化

◆労働者自主福祉運動の歴史・理念、および各事業団体の利用促進を目的とした「出前講座」について

希望に応じたオーダー（事業団体・時間・テーマ等）に対応し、連合富山構成組織や各地域協議会の集会・会議はもとより、加盟組織個別を対象とした講座も実施します。これにより、労働者自主福祉運動への参加と発信を一層強化していきます。

◆連合富山が取り組む「富山大学寄付講義」への参画

寄付講義では、労働者自主福祉運動の理念に加え、学費・奨学金問題の現状と課題、支援のあり方などについて提起し、学生への理解促進を図ります。

◆県教育委員会の賛同を得て実施する「高校生のための消費者出前講座」について

今年度4月より、県内高校生を対象に「高校生のための消費者出前講座」を実施します。講座では、

- ・働くうえで知っておくべき基礎知識（ワークルール講座）
 - ・消費者トラブル（ローン・クレジットの多重債務等）に関する基礎知識（北陸労金）
 - ・将来のライフステージ設計に関する支援（こくみん共済coop）
- などを取り上げ、社会人としての心構えを身につける機会とします。

【3】研修活動・広報宣伝活動

◆機関誌「とやま労福協」の発行について

機関誌「とやま労福協」を随時発行し、各事業団体の商品紹介や行事開催案内など、利用促進や共助拡大に向けた取り組みを積極的に発信します。

◆HP を活用した参加促進と情報発信の強化について

労福協が主催するイベント・集会・セミナーへの参加については、HP からの QR コード申し込みが浸透したことで、HP 閲覧の頻度が高まり、活動自体の認知度も向上しています。

2. 支え合い・助け合う地域共生社会づくり（ライフサポート事業の活性化）

労働者福祉事業については、年間を通じて勤労者の福祉サービス向上に努めることを活動の中心に据え、地域ライフサポートセンター事業による地域貢献活動の充実、スポーツ交流やフードバンク活動による困窮者支援・子ども子育て支援などの継続的な取り組みに加え、労働者福祉の活動を広げる新たな企画にも取り組み、活動の輪をさらに拡大していきます。

【1】地域ライフサポート活動の推進強化

◆各地域のライフサポートセンターは地協活動と兼務しており、「地協運営＋ライフサポート運営」と多岐にわたる役割を担っています。県ライフサポートセンターは、地域ライフサポートの諸活動を支援し、地域活動の基盤を支えています。

◆年2回（4月・10月）、委員会を開催し、地域活動の活性化や地域課題の共有、課題解決に向けた労福協との対話を進めます。

【2】2026 全国福祉強化キャンペーン

◆労働者福祉運動を前進させるため、「地域に一步踏み出す」取り組みを展開します。10月・11月を強化月間とし、その時々 of 社会的課題をテーマに集中した取り組みを実施します。

【3】国際交流促進事業

◆日中間の親睦・友好交流を目的とした「富山大学中国人留学生との交流ボウリング大会」は、コロナ禍以降、参加者が増加しています。今年度も富山県勤労者日中友好交流センターと協働し、新たなレクリエーションの導入も検討しながら、交流の機会を広げていきます。

【4】保健、文化・スポーツに関する事業

◆連合富山、地域ライフサポートセンター、退職者連合と連携し、スポーツを通じた相互交流や高齢者の心身の健康増進など、勤労者のリフレッシュ活動を推進します。

- ① ビーチボール大会（5月・連合富山との共催）
- ② チャリティーゴルフ（6月）
- ③ ボウリング（地域ライフサポートセンター主催）
- ④ パークゴルフ（地域：退職者連合との共催）
- ⑤ 健康づくりセミナー（適宜開催）

【5】勤労者の生活改善、サポートに関する事業

- ◆勤労者の生活支援や生活設計の助言を目的とした「ライフプランセミナー」は、地域ライフサポートセンターを中心に北陸労働金庫・こくみん共済coopと連携して適宜開催しています。今年度は、60歳前後の方を対象に「退職前後の準備」「年金問題」などをテーマとしたセミナーを提案します。

【6】福祉相談、子育て支援に関する事業

- ◆子育て支援事業の一つである「親子ふれあい事業」では、親子スキー・スノーボードの集い（1・2月）をはじめ、夏休み期間に実施できる企画を展開し、多くの家族に参加いただけるようPR・周知を強化します。

【7】地域福祉促進事業

- ◆第97回メーデーでは、例年通り各地域会場でフードドライブを実施します。「食の支援を通じた支え合いの地域づくり」をテーマに社会的メッセージを発信し、未組織労働者や一般市民へのアピールを行います。
- ◆社会的養護支援では、NPO・NGO団体との連携を広げ、子ども食堂、児童養護施設、親子生活支援施設等に向けたフードドライブを実施し、子どもを育む取り組みを推進します。
- ◆県内勤労者の福祉向上を目的に、福祉講演会や消費者セミナーを適宜開催し、介護福祉に関する社会問題や現状を学ぶ機会を提供します。

【8】社会貢献活動（ボランティア活動）に関する事業

- ◆災害ボランティア、奉仕活動、環境保全の清掃活動など、社会貢献活動は多岐にわたります。地域共生社会づくりを推進するため、連合富山や各地域協議会と連携しながら取り組みを進めていきます。

3. 政策・制度に関する「要求と提言」活動

【1】自治体要請行動の展開

◆政策・制度要求の策定について

政策・制度要求の内容については、中央労福協が示す全国的な取り組みを踏まえつつ、連合富山総研と調整を行い、地域の実態に即した形で策定します。

◆富山県・富山市への要請行動

富山県および富山市に対し、労福協および各福祉事業団体の事業運営に関する助成金の予算措置について要請を行います。

◆中小・零細企業で働く労働者の福利厚生充実に向けた提言

中小・零細企業で働く労働者の福利厚生制度の充実と福祉格差の是正に向け、富山市・高岡市勤労者福祉サービスセンターとの協議を通じて提言を行います。

Ⅱ. 収益事業（テナント事業・貸室事業・駐車場事業）

1. 富山労福協「第Ⅱ期 中期経営改善計画」最終年に向けた取り組み

収益事業強化と会館維持に向け、2024 年度から取り組んできた「第Ⅱ期 中期経営改善計画」も 2026 年度で最終年となります。この間、事業運営にあたっては、明確な目標設定に基づく収支計画の策定と、安定的なキャッシュフローの確保を最優先に取り組んできました。昨年度は外壁の全面修繕工事にも着手し、結果として 5 年連続の経常黒字を達成しました。

最終年となる 2026 年度の収益事業では、「運営（経営）に独立性を確保した事業運営」をめざし、資金運用において公益事業（労働者福祉事業）に依存しない体制づくりに向けた取り組みを進めます。

今後も労福協理事会において、計画の進捗状況や経営状況を共有し、収益事業の運営について協議を重ねていきます。

2. 2026 年度 収益各事業の取り組み

会館は築 40 年を超え、内装・設備の老朽化が進んでいます。また、近隣施設の増加により利用者の行事縮小・利用減少も続いており、事業運営を継続するためには、差別化と付加価値の創出が求められています。

【1】テナント事業

(1) テナント誘致の強化

- ▶ 2025 年度末時点で、会館テナント契約は 30 室中 24 室と高い入居率を維持しています。今年度も「テナント入居率 100%」を目標に掲げ、「立地条件の利便性・優位性」「近隣テナントとの価格帯比較」といった強みを前面に PR し、早期契約と収益確保に努めます。

(2) 遊休スペースの活用

- ▶ 専門ポータルサイト企業と提携し、貸会議室・テナントの遊休スペース（3F・

婚礼フロア、9F・和室等)の活用を目的とした情報を発信し、ワークスペース・展示スペースなど多用途に有効活用します。

- ◆会館内部の機械設備等の補修・修繕については、財政状況を踏まえつつ優先順位を設定し、適宜実施します。

【2】貸室事業

- ◆貸会議室の需要が高まるなか、県内外のリピーター利用と新規利用の獲得を両輪で推進します。2026 年度も受注件数・売上の目標を設定し、以下の取り組みを軸に貸室利用者の誘致拡大を図ります。

(1) リピーター利用に対する対応の徹底と強化

- ▶ 過去のリピーター利用者に対し、定期的なフォロー体制を整備し、利用目的に応じた柔軟な対応を実施します。

(2) 「立地・アクセスの強み」を活かした新規顧客開拓

- ▶ 県内団体、企業への DM 発送を継続し、季節イベントや繁忙期に合わせてアプローチをします。
- ▶ 県外大学に対し「地方入試会場」「学校説明会場」としての利用促進で教育機関需要の拡大をはかります。
- ▶ 営業活動拡大において、旅行会社・エージェント・イベント会社、富山県人会等への直接訪問を強化します。

(3) 情報収集と情報発信強化

- ▶ 貸会議室業界のトレンドを継続的に収集し、AI 検索時代に対応した情報発信や業務改善に取り組みます。

(4) 「ボルファートとやま」の認知拡大

- ▶ 立地・アクセスの利点を県内外の利用者に積極的に PR。
- ▶ 「労働会館」としての強みを活かし、連合富山構成組織・加盟組織、各地域協議会への直接営業を強化し、受注件数の拡大を図ります。
- ▶ 「貸室＋ホール＋宴会等」、一体型のワンストップサービスの提供を推進します。
- ▶ イベント・展示会など利用者のニーズに応える「多目的利用」を推進します。

(5) 限られた人材のなかでの営業活動の体制づくり

- ▶ 業務に対する意識付けを目的に、昨年からの取り組みを継続します。
 1. フロント業務と営業行動のローテーション制を継続と 1 人あたり月 10 件の顧客獲得を目標に営業を強化します。
 2. 宴会準備・会場設営など人手が必要な場面では、事業横断的な協力体制を強化し、「業務の多能化」を推進します。

【3】駐車場事業

(1) 定期（月極）

- ▶ 定期（月極）利用については、2025 年 3 月末時点で 405 台を確保しました。2026 年度も近隣企業やテナントへの誘致を継続し、多少の増減は見込みつつも 400 台を基準として維持し、安定した収益の確保に努めます。

(2) 時間貸し

- ▶ 4 月に環水公園親水広場、9 月に富山市総合体育館の改修工事が終了する予定です。イベント等も徐々に回復しますが、当面は貸室稼働率の向上による収益確保を図ります。一方、下期以降は近隣イベントが再開される見込みであることから、昨年下期の減収分をどのように回復していくかを重点課題として取り組みます。

(2) 業務の効率化・利便性向上をはかるための設備投資

- ▶ 冬期間やイベント等による混雑解消とトラブル防止、業務の効率化をはかるための設備投資を 10 月以降の設置導入に向けて進めていきます。
 1. 入庫時のチケットレスシステムの導入
(安全面を優先するゲートバーの設置の可否も検討)
 2. 精算機のキャッシュレス決済機器の導入

Ⅲ. ボルフアートとやま・将来ビジョン検討委員会

- ◆会館が 2024 年に築 40 年を迎えたことを受け、富山労福協では「ボルフアートとやま・将来ビジョン検討委員会」を設置し、会館の事業運営、修繕・維持管理の今後のあり方、そして将来の方向性を定めるための協議を進めてきました。
- ◆これまでに計 6 回の委員会を開催するなか、会館の今後の方向性を決定するためには、残された諸課題の解決を含め、さらなる検討が必要であると判断しました。ボルフアート将来ビジョンの「最終的な形」の確立をめざすためにも、外部コンサルタントとの協力関係を継続しながら、引き続き検討と議論を深めていきます。

以 上